

07. ● 8月8日(月) 空沼岳(1251m) 晴

・札幌近郊には先日登った余市岳、去年登った札幌岳、札幌岳と尾根続きの空沼岳、一昨年登った支笏湖北岸の恵庭岳などがある。この中でまだ登っていないのが空沼岳。札幌から近くにあり札幌市民に愛されているという空沼岳に登った。

・4時半に目が覚めた。あのうるさい軽自動車はもうどこかへ去り、そのあとにタクシーが止まっている。こんな道端にいられないのですぐ昨日の駐車公園へ向かった。昨夜の若者たちと騒音を撒き散らした車はすべていなくなり静かな駐車場に戻っていた。ここで朝食やトイレなど朝の支度を整えて空沼岳登山口へ出発した。

・札幌から国道453号を南下し「札幌芸術の森」の少し先のわき道を右に入った奥に登山口がある。札幌市民に愛されている山で、昨日偵察した時には登山口駐車場に沢山の車がとまっていたが、今朝は車が一台しか止まっていない。昨日は日曜日だからあんなに混んでいたのか。

・登山者ノートに記入したのは私が最初。6時に登山口を出てから延々と続くエゾマツの大木と広葉樹の静かな混合樹林の中をひたすら歩くこと2時間近く、やっと万計沼に着いた。



空沼岳登山口



静かな万計沼



立派な万計山荘

・万計沼畔には立派な無人の万計山荘が建っていて、中を覗いたら炊事場まで完備していた。万計沼は森に囲まれた静かな沼で、誰もいないので美しい眺めを独り占めしながら一息入れた。

・これからまた混合林の中の緩い登りの登山道を小一時間歩いて真簾沼へ向かった。途中キツリフネやタケシマランの赤い実、イチヤクソウなど、それに初めて見る花が次々と現れて静かで涼しく楽しい道だった。



キツリフネ



タケシマランの赤い実



イチヤクソウ

・静かな混合林の中を1時間弱歩くと、今度はパッと開けて明るい真簾沼が現われた。真簾沼は湖岸に石がごろごろして木が生えていないため静かだが明るく美しい気持ちの良い沼だった。



真簾沼

・ここからやっと急坂の登山道が始まる。今までの涼しい混合林の日陰から出て真夏の太陽をモロに受ける猛暑のなかでの急坂を登ることになった。登りの途中で下って

くる男性一人とすれ違った。駐車場に一台止まっていた車の人だろうか。ということは山頂にはもう誰もいないことになる。頭上の太陽はガンガン照っているが、ついさっきまで雲一つない快晴だったのに、南東側から雲がどんどん湧いてきて南東側の視界が殆ど無くなった。最後の急坂を詰めて山頂に出た。

予想通り私一人であと誰もいない。

・山頂は岩場で狭く日陰が全く無い。真夏の強力な日差しを直接受けるので暑くてたまらない。

展望は 180 度ひらけている。北の方を見ると尾根続きの札幌岳方面が、西の方にひときわ高く後志羊蹄山、その奥にニセコの山々、羊蹄山の左には一昨日登った尻別岳が眺められる。南方には雲が湧き上がっていて、すぐ近くにある恵庭岳は上のほうが雲の中、その先にある風不死岳は残念ながら見ることができなかった。



空沼岳山頂



・30分ほど山頂に滞在しているうちに雲が発達し積乱雲が発生、太陽も隠れてしまい落雷の危険を感じたので早々に同じ道を引き返して下山した。下山途中数人の登ってくる人とすれ違った。これから登っても全く視界がないだろうにと気の毒に思いながら、美しい真簾沼と万計沼に別れを惜しみつつ13時半に登山口へ戻った時には雨がパラついていて。コースタイムでは6時間弱と書いてあったが往復7時間余かった。行程は15km強もあり長いが静かで美しい沼めぐりの大変良い山だった。

・これで今回の山紀行計画の前半（道央の山）が無事終了した。後半の南大雪方面の山紀行に向けて一息入れよう。まず今日の汗を流すために、恵庭「ラフォレ温泉」に向かった。ここは毎年必ず来ているし、懐かしくいい湯だ。380円という安さも変わっていない。フードセンターで夕食の食材とビールを購入、毎年来ている道の駅

「花ロードえにわ」に落ち着いた。何時も混雑しているこの駅が予期に反して意外に空いていて、いつもの指定席に車を止めることができた。ここは快晴で日差しが熱い。まず洗濯してから今日の写真の整理、日記の記入とルーチン作業を済ませてから夕食に取り掛かった。

・前半の無事完了を祝して、ビールで祝杯、豪華な夕食をとり7時過ぎに就寝した。外はまだ明るい日が落ちると風は涼しい。明日の予定は特にない。ゆっくり寝よう。